

由利本荘市立東由利中学校



# だいやま 台 山

【学校教育目標】  
 清らかにたくましく  
 学校だより  
 NO15  
 令和6年7月8日(月)

## 由利本荘市教育委員訪問

7月4日(木)の3校時に、由利本荘市教育委員会の秋山正毅教育長をはじめとする7名の委員の方々による学校訪問がありました。

校内で授業を一巡後、委員の方お一人お一人から学校経営に関する指導や助言と授業を参観されての感想をいただきました。どの委員も、生徒の授業に臨む姿勢や生徒同士、先生との関係のよさについて触れられ、お褒めと励ましの言葉をいただきました。その中から、参観後の感想の一部を以下に紹介します。

- ・どのクラスも落ち着きや集中力があり、授業のねらいに即して真剣かつ楽しく取り組めている。
- ・生徒も先生も明るい表情で関係のよさが伝わった。
- ・校舎を丁寧に大切に生活していることが分かる。
- ・1年A組は、素直に意見や考えを表出し、適切に表現する力が高まってきている。中学生になってからの大きな成長に驚いた。
- ・1年B組は、何度も貼り合わせる活動を生徒も先生も楽しそうに取り組んでおり、共同での作品作りが、達成感や有用感にもつながっていると感じた。
- ・2年生は、表やグラフを選択し、タッチペンを上手に使って色も使い分けるなど、日頃よりタブレットを活用した学びを推進していることがうかがえた。
- ・3年生は、生徒が燃えて熱狂して取り組む元気のととも、ルールや攻略、作戦などを「考える体育」に変わっていることがうかがえた。



張り子のキャラ作り



作品に購入希望の声も

今回いただいた指導や助言を今後の学校運営や授業に生かしながら、さらによりよい東由利中学校を目指していきたいと思っております。これからも、みんなで頑張っていきましょう。



共感具合を数値で



積極的に考えを発言



身近な数学の問題



終始響く応援や歓声



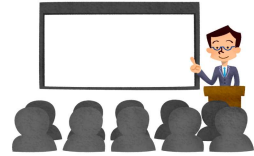
工夫の多いソフトボール



表やグラフをタッチペンで

## 由利本荘市夏季教職員研修会における講演のご案内

- 1 期 日 令和6年8月7日(水)
- 2 場 所 由利本荘市文化交流館カダーレ 大ホール
- 3 時間及び内容 入 場 13:25 ~ 13:35  
研修会(講演) 13:45 ~ 15:10



『スマホ等が児童生徒に与える影響やよりよい付き合い方について』(仮題)  
講 師 東北大学 応用認知神経科学センター  
助教 榎 浩平 氏

※講演終了後は教職員のみを対象とした研修がございます。速やかな退場に御協力をお願い致します。

### 4 申込み方法

○右の二次元コードより、申込フォームにアクセスし、直接お申込み下さい。

※**申込締切：7月12日(金)**

- ・保護者の方の座席は、2階後方に御用意しております。
- ・今回取得した個人情報は、受付業務にのみ使用いたします。



## B組要請訪問

5日(金)の5校時に中央教育事務所由利出張所 高橋\*\*指導主事とゆり支援学校 大庭

\*\*\*先生をお迎えして、B組の要請訪問が行われました。

授業は、龍翔さんが、Excelを使って予定表を作成したり、Minecraft EducationやPowerPointを使って、オリジナルの図鑑を更新したりする内容でした。\*\*さんは、パソコン操作に長けており、文字入力やコピー、貼り付けなどの作業を手際よく進めていきます。検索する際にも、ワードを追加して絞り込むなど、飲み込みの速さや集中力もうかがえました。



Minecraft は自由に建築物の創造が可能なソフトですが、最後には、作成中の東由利中学校も見せてくれました。パソコン上の学校は、外観のみならず、校舎内の見取り図も精巧に造られており、構造の確かさに驚かされました。完成が楽しみです。

## 小松耕輔生誕140周年メモリアルコンサート感想より

3年 渡辺 \*\*

小松耕輔さんのメモリアルコンサートに参加して、ピアノ演奏を聞きました。多数ある曲の中で、知っているものも知らないものもあり、聞いていて嬉しかったです。「ふるさと」は有名で知っている曲だったので、レクチャーしてもらえて良かったです。また、会場のみんなで歌ったときは、きれいだなと思いました。小松耕輔さんは、音楽について沢山勉強してきたのだなと話を聞いて感じました。長い歴史があって、難しい内容で分かりにくかったこともあったけど、耕輔の「耕」は「耕す」という字で、人の心を耕したり、文化を耕すということにつながっているということで、音楽は周りを元気にしているのだと思います。東由利は恵まれているなと思いました。

## 第74回「社会を明るくする運動」

～犯罪や非行を防止し、自ら責任を担う地域社会をつくる～

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。昭和26年から始まったこの運動は、国民の御賛同を賜り、今年で74年目を迎えました。

情報通信技術の進歩により、私たちのライフスタイルは急速に変化し、機能的に便利になりました。一方で、人と人とのつながりが希薄化し、望まない孤独や社会的孤立などの問題も生じています。様々な「生きづらさ」は、私たちの誰もが抱える問題であり、ときに犯罪や非行という形となって私たちの社会に影響を及ぼすこともあります。

多様な背景を持つ人々が、お互いのことを理解しながら、共に支え合うことができるよう、包括的な地域社会の実現を目指すことが重要です。保護司をはじめとする民生保護ボランティアの方々、地域の方々の幅広い御理解と御協力をいただきながら、全ての国民がそれぞれの立場において力を合わせることで、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築いてまいります。

「人は変われる」ということを信じ、人が「変わっていく時間」を希望を持って受け止めると共に、本運動の社会的意義や民生保護ボランティアの存在・役割について御理解いただき、「幸福(しあわせ)の黄色い羽根」のもと、本運動に御参加いただきますようお願いいたします。

内閣総理大臣

岸田文雄

## 「社会を明るくする運動」

7月3日(水)に本荘地区保護司会の方6名が、「社会を明るくする運動」の総理大臣メッセージ伝達のため本校を訪れました。

この運動は、すべての国民がそれぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安心で明るい地域社会を築こうとする全国的な運動で、今年で74回を迎えます。メッセージには、運動への理解や参加への協力が呼びかけられており、法務省からは30秒程度のショートアニメも出されているようです。会の方々は社会を明るくする運動作文コンテストの案内も置いていかれましたので、関心のある人は調べたり、考えたりしてはみてはどうでしょうか。



